

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	中学校給食導入事業			事業番号	10-103
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	教育部学校教育担当	石渡 誠一	学校教育課	守屋 康弘	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり	
		施策展開の方向	5	子どもの生きる力をはぐくむまちをつくる	
		施策	10	安全で快適な教育環境の整備	
予算事業名	中学校給食事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→		法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前	～	終了年度	—
関連法令等	学校給食法				
国・県の計画等			計画期間		
関連個別計画	第5次総合計画後期基本計画中期戦略事業プラン		計画期間	平成30年度	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	中学校給食は生徒の食育指導の機会の1つであるとともに、近年の共働き世帯の増加や子どもの貧困対策等の社会背景によってその重要性が一層高まっている。				
目的 (何をどうしたいのか)	中学校における給食の導入を計画的に進め、栄養バランスのとれた望ましい食生活を促すなど、食育指導の充実を図り、生徒の健やかな成長を支えます。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市内公立中学校生徒				
事業内容 (手段、手法など)	中学校における栄養バランスのとれた給食の導入を進めます。				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	中学校給食の導入	試行準備	試行	試行、検証	
目 標	【指標名】	年度			
		【現状値】	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	中学校給食の導入に向けた取組状況	方針決定 (平成29年度)	試行準備	試行	試行、検証



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)					
実施方法 〔選択・記入〕	○すべて直接実施 ●左記以外				
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者	民間調理業者	
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先		
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容		
実施結果	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	中学校給食の導入	試行準備			
実施した取組の内容	先進市から情報の収集、調理業者との意見交換や施設見学等を行い、学校で加熱する手法や注文管理システム構築に向けて準備を進め、試行校の配膳室設計業務を着手しました。また、関係者に導入方針についての説明と喫食の見込を把握するためのアンケートを実施しました。				
目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	中学校給食の導入に向けた取組状況	方針決定 (平成29年度)	試行準備		

コスト	年度		平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績			
	事業費合計 (a)		386	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
	内訳	国県支出金 ①	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
		地方債 ②	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
		その他特財 ③	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
		一般財源 (a)-①-②-③	386	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
	国県支出金の内容													
	その他特財の内容	受益者負担	○有 ○無		前回の改定時期									
		その他												
	人件費	正規職員	0.627	人	5,336	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		その他の職員	0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		人件費合計 (b)	0.627	人	5,336	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
	トータルコスト (a)+(b)		5,722	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
	単位当たりコスト	対象数	定義	中学校給食喫食見込み対象者数		単位			単位			単位		
			対象数	2,600	人									
総事業費 / 対象数		2,201	円					円			円			

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 先進市から情報の収集、調理業者との意見交換や施設見学等を行うとともに、学校で加熱する手法や、注文管理システム構築に向けて準備を進めました。 導入方針についての説明と喫食の見込を把握するため、小学6年生の児童及び中学1年生の生徒とその保護者並びに中学校の教職員を対象として、中学校給食についてのアンケートを実施しました。 試行校の配膳室設計業務を開始しました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input checked="" type="radio"/> 一律に比較できない事業	—	他都市の事業内容等	デリバリー方式の給食は他市町でも導入実績があるが、伊勢原市が導入するデリバリー加熱方式は調理場から学校へ配送後に再加熱し、温かいおかずを提供するため全国的にも数少ない。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	先進市のデリバリー方式の課題として冷たいおかずの提供による喫食率低下がある。昨年度実施したアンケート結果では、保護者、児童、生徒から温かい給食が食べたいという要望が多くありました。温かなおかずの提供により栄養バランスのとれた望ましい食生活を促し、生徒の健やかな成長を支えることが期待できます。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	小学6年生の児童及び中学1年生の生徒とその保護者並びに中学校の教職員を対象とした、中学校給食についてのアンケート実施により、導入方針についての周知と中学校給食へのニーズや喫食見込を把握することができました。



取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	中学校給食導入に伴い、配膳と食後の片付け時間を要すことから、これまでの昼食時間に影響が及びます。望ましい食生活を促進する上で咀嚼、消化吸収等の健康面及び配膳、片付けを慌てることなくできる安全面に配慮した日課の調整が必要です。
令和元年度の取組方針		<ul style="list-style-type: none"> 中学校1校における給食試行に向け、調理業者の選定、注文管理システムの構築をするとともに、試行校の配膳室を整備し、令和2年1月(3学期)から試行実施します。 試行実施後、アンケート等により課題を整理し、他3校の実施に向け調整を図ります。 		
所管部長による総評		栄養バランスのとれた望ましい食生活を促し、生徒の健やかな成長を支える中学校給食の導入を計画的に進めることが必要であると考えます。引き続き、保護者をはじめその他関係者に対し、伊勢原市ならではのデリバリー加熱方式の特徴である”温かいおかずが食べられる”ということをさらに周知し理解を深めるとともに、先進都市の成功事例を取り入れ、事業の推進に努めてください。		